

のしろ児童館だより

小松市北浅井町へ29

TEL・FAX 22-6430

平成29年 11月号

「笑顔」の写真展

すこし前のことになりますが、夏休みに素敵な「写真展」を見ました。郊外にある病院の二階の廊下を使った「ギャラリー」での展覧会です。内容は「～あしたも元気！の子どもたち～」と題する「波佐谷児童クラブ」の子ども達の笑顔（日常）を撮影したものです。

そこには子ども達のたくさんの「笑顔」が飾られていました。・・・遊ぶ楽しさを体中で感じ、夢中で遊ぶ子ども達の笑顔。仲間と一緒にいることを喜ぶ笑顔。自分（自分達）を見守ってくれている職員に向けた笑顔・・・いろいろな「笑顔」がはじけていました。そしてその中心にあるのは、撮影者と子ども達の信頼の「笑顔」であると感じました。両者に「信頼」がなければ子ども達の自然な笑顔は撮影できないことを、児童館で働く者として痛感しているから感じたのです。

「笑顔」は見る人に「力」を与えてくれます。展覧会の隅に「感想ノート」が置かれていました。そこには「力をもらった」という人の感想がつづられていました。この「感想」に出会ったのも印象的でした。・・・「子ども達の笑顔、一点のくもりもないそのまんまの表情。心暖かくなります。病院生活の中、何度か何度もこの笑顔に会いにきています。ありがとう。」
「このまま大きく育ててね！と思いながら、前回もこの子ども達の笑顔を見せていただきました。仕事の合間に時々見えています。仕事の疲れもフットビます。ありがとうございます。」
「ひじょうに子ども達の表情が豊かな力作で、心がなごみました。」「すてきな写真ありがとうございました。いやされます。またがんばれます。」・・・こんな「感想」が印象的でした。最初は「なぜこんな病院のギャラリーで写真を発表するのだろうか？もっと人が集まりやすい会場もあるのではないか？」という思いもあったのですが、主催者の意図・願いは、病院のギャラリーであるからこそ実現するのではないかと感じたのです。

見る人に元気を与える「笑顔」を生み出す「学童」の生活は、子ども達自身にも大きな「財産」を残すことは間違いないでしょう。主催者の挨拶文にあったコメントも印象的だったので紹介します。・・・《ガクドウ》は子ども達にとって、思い思いのことをして遊べる息抜きの場であり、人間力を鍛える場でもあると思います。毎日のようにちょっとしたけんかもありますが、「ごめんなさい」「いいよ」の後はケロッとして一緒に遊んでおり、子ども達のしなやかな強さや優しさに関心させられます。そんな彼らが大人になった時、「そう言えば《ガクドウ》は楽しかったなあ」と思い出してくれる《ガクドウ》でありたいなあと思っています。・・・ゆったりと子ども達を育み、しっかりと子ども達を支えている大人の力を感じます。だからこそ子ども達の「しなやかな強さや優しさ」が子ども達の中に育つのではないのでしょうか。